

5. 省略

省略は「それがなくなっても、それが元々そこにあったことが分かる」のが原則。こんな状況はだいたい次のような場合に起こる。

- ・前後に同じものがあり、わざわざ2つなくても分かる
- ・いつもよく使う表現だから、なくなっても分かる

<2つなくても分かる>

- ① You can stay here if you want to [stay here]. ----- 代不定詞
- ② I saw Lake Biwa on my way to [Kyoto] and from Kyoto. ----- (a+b)x / x(a+b)

<いつもよく使うのでなくても分かる>

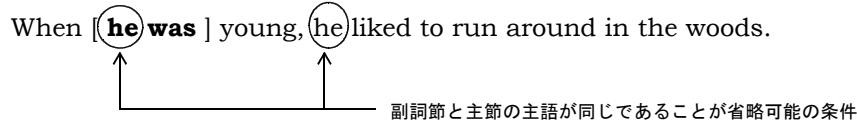
- ③ When [he was] young, he liked to run around in the woods. --- 接+[A=] B
- ④ What are the language [which is] spoken in Japan?----- [関係代名詞=]B
- ⑤ There is the child [who] lost his way in the park.----- There is+先行詞+[主格の関係代名詞]V ~
- ⑥ I had difficulty [in] solving these questions. ----- [前置詞]+動名詞

③④に共通するのは「A = B (SVC)」の要素だ。

he	was	young
A	=	B

the language	is	spoken
A	=	B される

「A=B(SVC)」は「SVO」と並んで安定性の高い文型。その「安定性の高さ」ゆえに、少々の変形にもビクともしない。「A=B」の「A」には既知情報、「B」には新情報を配置する。「A」が例えば「Mike」ではなく「he」で皆に通じるのが既知情報であることを裏付けている。省略が許されるとすれば、既知情報を配置する「A」の部分。新情報を省略してしまうと、言いたいことが伝わらない。だから「接+A=B」の「A」を省略しても、何がなくなったのか分かる。



「関係代名詞 = B」の「関係代名詞=」が省略できるのも同じ理屈だ。関係代名詞は接続詞+代名詞なのだから、「関係代名詞=B」は「接続詞+代名詞=B」。代名詞をAとすると、結局これは「接+A=B」と同じ。中学の時に習った「分詞の接触節」と言うのがこれだね。

French people like the book [which is] dealing with Japan.
I can't read books [which are] written in English.

⑤は省略した方が文が分かりやすいからだろう。

<There is the child> lost his way in the park.
There is <the child lost his way in the park>.

見てお分かりの通り、⑤は2つの文から成り立っている。<There is ~>や<Here is ~>には eyecatcher (人の耳目を引きつける) 効果はあるが、情報価値は皆無。だから<there is>はよく省略される。

Correct error, if [there are] any. 誤りがあれば正しなさい。

⑤は関係代名詞<who>の省略と考えるよりも、eyecatcher の<There is>と情報価値の高い<the child lost ~>とをわざわざ分離したと考える方が分かりやすい。⑥はまさにいつも使うのでなくても分かる類のもの。

5-①不定詞の省略表現 (代不定詞)

<例題43>全統マーク模試・改題

Now that she's made up her mind to resign, there's no () () () () ().

- ① her ② not to ③ persuade
- ④ you can ⑤ way

Now that she's made up her mind to resign, there's no (way)(you can)(persuade)(her)(not to).

- 彼女は辞職する気持ちを固めてしまった以上は、彼女に思いとどまるよう説得するのは不可能だ。
- ・消去の法則を用いて、つなぎ語<Now that>と動詞1を消去するから、後半コマ(,)以降を考えればよい。
- ◎空所直前に形容詞<no>がある。<no>は「ゼロの～」の意味の形容詞。直後には名詞を割り振ることになるから⑤<way>しかない。
- ・動詞候補は<there's>と③<persuade>の2つだが、つなぎ語がない。ここでつなぎ語の省略かなと考える。
- ・つなぎ語以降の文は<you can persuade 人 to ~>と続くはず。
- ◎ここから先は、つなぎ語である関係代名詞の省略、不定詞の省略表現に思い至るかどうかが鍵。

★次の表現が狙われる！

「to+動詞の原形～」を2度繰り返すのを避けるために、「to」で止めて以下を省略することがある。

You can stay here if you want to [stay here].
I'll help you whenever you want me to [help you].

5-②「接続詞 A=B」で「A=」の省略
 <例題 4 4> 東京理科大・改題

She never () () () () ().
 ① speaks ② spoken ③ a word
 ④ unless ⑤ to

She never (speak)(a word)(unless)(spoken)(to).

- 彼女はこちらから話しかけない限り口を開かない。
 ・文頭の<she never>に続く動詞は①<speaks>で、その目的語は③<a word>しかない。
 ・つなぎ語④<unless>があるにも関わらず、それが導くはずの文の主語も動詞も何もない。
 ・残された語句は<to spoken>はあり得ないので、<spoken to>とする。
 ◎接+A=Bの「A=」の省略と考え、<unless [she is] spoken to>、不定詞の省略表現に思い至るかが勝負。

★次の表現が狙われる！

接続詞	A	=	B

5-③「関係代名詞 =B」で「関係代名詞=」の省略 / 「There is 先行詞+関係代名詞+V」で関係代名詞の省略
 <例題 4 5>

This () () () () ().
 ① the information ② you ③ most important
 ④ is ⑤ for

This (is)(the information)(most important)(for)(you).

- これはあなたたちにとっては一番重要な情報です。
 ・文頭の<This>に注目し「This+名詞」の可能性のない事を確認する。
 ・ならば唯一の動詞候補④<is>を用いて<This is ~>の可能性しかないことになる。
 ・<This is most important for you.>では<the information>が余ってしまい、先に進まない。
 ・ならば<This is the information>の可能性しかないのだが、<most important for you>がつながらない。
 ・期待されるのは<This is the information **which is** most important for you.>だがつなぎ語も動詞もない。
 ◎ここで「関係代名詞 =B」で「関係代名詞=」の省略に思い至るかどうか？

<例題 4 6> 東京理科大・改題

There () () () () ().
 ① a woman ② is ③ wants to
 ④ to ⑤ for this restaurant ⑥ work

There (is)(a woman)(wants to)(work)(for this restaurant).

- このレストランで働きたがっている女性がいます。
 ・主語候補は①<a woman>。動詞候補が2つあるがつなぎ語が存在しない。
 ・動詞候補の可能性は<wants to is ~>はあり得ないので<wants to work ~>
 ・文頭の<There>との結びつきは<There is a woman ~>しかない。
 ・期待できる英文は<There is a woman who wants to work for this restaurant.>
 ◎つなぎ語の不足から、「There is 先行詞+関係代名詞~」で関係代名詞の省略に思い至るかどうか鍵。

★次の表現が狙われる！

これも「接続詞 A=B」での「A=」の省略と原理は同じ。なぜなら、関係代名詞は接続詞と代名詞をその中に含んでいるからだ。

5-④共通要素の省略
 <例題 4 7> 桜美林大・改題

Tidiness means keeping things () () () () ().
 ① and ② when ③ wanted
 ④ out of sight ⑤ yet available

Tidiness means keeping things (out of sight)(and)(yet available)(when)(wanted).

- 整頓とは、見えないところに保管しつつ、必要な場合には使えるようにしておくことだ。
 ・動詞は<A means B.>。Bは動名詞で<keep →何を→どの様に>。③<wanted>は動詞か分詞か？
 ・つなぎ語は①<and>と②<when>。動詞は3つなくてはならないのに、候補は2つしかない。
 ・等位接続詞<and>の直前と直後は対称形になるはず。同機能の2語は形容詞で<out of sight>と<available>
 ・動名詞<keeping>に注目し直すと、<~ keeping things out of sight and yet available>が自然。
 ・<when>の後半に動詞が1つ必要だが、使えるのは<wanted>しかないが、文が現在時制の中にあるので<wanted>は過去分詞の可能性が高い。
 ◎残った<when>と<wanted>を処理するとき「接+A=B」の「A=」の省略に思い至るかが勝負。

★次の表現が狙われる！

普段から授業で言っているように、and, but, or, norがあれば「直後に注目、直線に対称形を探せ！」。等位接続詞だけでなく、「A rather than B」「prefer A to B」「some ~, others ~」等の対比・対称表現にも注意が肝要！

5-⑤前置詞の省略

<例題48> 芝浦工大・工学部・6-①

In most traditional societies it was men who had the power and made the important decisions. They also owned almost all the property. Women () () () () () () children.
 ① food ② their time ③ and ④ spent
 ⑤ most of ⑥ looking after ⑦ preparing

Momen (spent)(most of)(their time)(preparing)(food)(and)(looking after) children.

- 女性達は自分の時間の大半を食事の準備や子供の世話に費やした。
- ・主語<Women>は与えられている。
- ・動詞候補は④<spent> 1語しかないので<Women spent ~>。
- ・目的語は①<food>ではおかしいので<Women spent their time ~>。
- ・等位接続詞③<and>の前後は対称形にするので、同機能語を探すと⑥<looking after>と⑦<preparing>。
- ・文末の<children>との結びつきを考えると<preparing food and looking after children>しかない。
- ◎動名詞の前の前置詞が省略されることに思い至ればOK。

★次の表現が狙われる！
 have difficulty [in] ~ ing
 spend +時間 [in] ~ ing

6. 無生物主語

日本語が与えられている場合が多く、日本語通り<主語>や<動詞>を選ぶと行き詰まるパターン。大和言葉は原則として人を主語に取る。現代日本語もそこから派生している以上、人主語にするのが自然。だから日本人は無生物主語に違和感を覚えるはずだ。クイズにこれを生かさないと手はない。

<例題49>

この道を行けば駅にですよ。
 () () () () () the station.
 ① you ② lead ③ will
 ④ to ⑤ this road

(This road)(will)(lead)(you)(to) the station.

- ・動詞候補は<lead>のみ。助動詞と結びつけて<will lead ~>。
- ・主語候補は<you>か<this road>の2つだから、<You will lead this road ~>か<This road will lead you ~>。
- ◎ここでモノ主語構文に用いる<lead>に思い至るかが鍵。

★次の表現が狙われる！
 <乗り物>
 This bus will **bring**[take] you to the station.
 <道>
 This road will **lead**[take] you to the station.
 <行為>
 A short walk will **bring**[take] you to the station.

<例題50> 南山大学

うちの庭から町が一望ですよ。
 () () () () ().
 ① the town ② our garden ③ commands
 ④ an extensive view ⑤ of

(Our garden)(commands)(an extensive view)(of)(the town).

- ・名詞候補だらけ。当然主語の役割を割り当てる名詞が1つ。⑤<of>を用いて「A of B」で2つ。
- ◎動詞<commands>に「見下ろす」の意味があり、モノ主語構文に用いることに思い至るかが鍵。

★次の表現が狙われる。
 多義語「command」は頻出。
 「命令する」
 ↳「人を見下ろす」→「場所を見下ろす」
 ↳「指揮する」→「支配する」
 ↳「尊敬の念を抱く」→「(尊敬に)値する」